

地域活性化の拠点づくり

岡山県真庭市の取組み

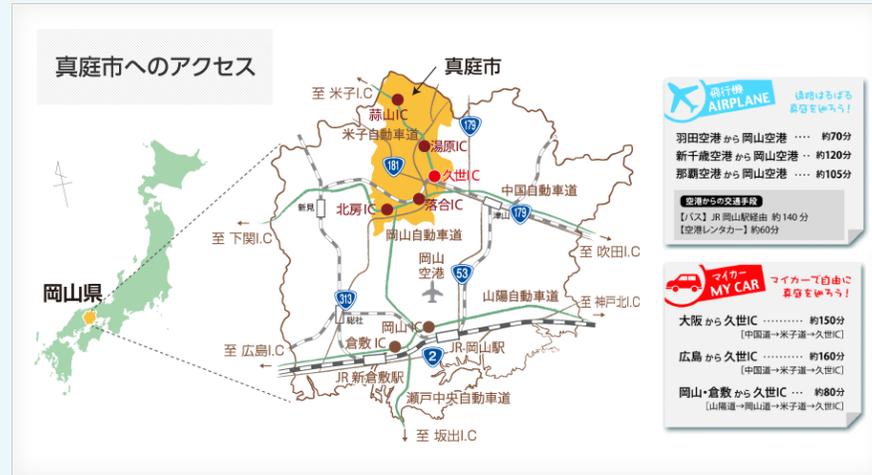
真庭市 政策推進監 兼 学びの創造推進監 牧 邦憲

施設活用

- 2021年～ 廃校を活用した「ふるいち二川まんが館」
- 2022年～ CLTを活用した施設の晴海からの移築「**GREENable HIRUZEN**」
- 2023年～ 休暇村の施設を活用したシェアオフィス「**蒜山ひととき**」
- 2024年～ 公民館と福社会館による**複合施設・旧真庭高校久世校地の利活用**

真庭市概要

- 真庭市は、平成17年3月31日に当時の真庭郡勝山町、落合町、湯原町、久世町、美甘村、川上村、八束村、中和村及び上房郡北房町の**9町村が合併して誕生**
- 岡山県北部で中国山地のほぼ中央に位置
- 東西に約30km、南北に約50km、総面積は約828平方km



蒜山高原、湯原温泉、勝山町並み保存地区

バイオマス、発電、CLT、生ごみ資源化

市の北部に広がる**蒜山高原**では酪農が盛んで、特に飼育頭数日本一を誇る**ジャージー牛**の乳製品は全国的にも知られるところだ。また、その南部には泉質良好な**湯原温泉**、のれんの町並みで知られる**勝山町並み保存地区**があり、蒜山高原とともに観光エリアを形成しています。

中南部を中心に農林業が盛んで、とりわけ良質なスギ・ヒノキを産出する林業は、古くからこの地域の雇用を支えてきました。現在でも多くの伐採事業者や木材加工会社、市場などが操業しており、真庭市の象徴である**木質バイオマス産業**の中心地になっています。また、清流・旭川の恵みを受け、稲作や果樹栽培などの農業も盛んです。

**真庭市の木
「ヒノキ」**



**真庭市の動物
「オオサンショウウオ」**



**真庭市の花
「サクラ」**



**真庭市の動物
「ジャージー牛」**



ふるいち二川マンガ館

2022年4月30日、旧二川（ふたかわ）小学校が、「ふるいち二川マンガ館」として生まれ変わりました。



- ◆ 蔵書規模：約10万冊のマンガが2階の教室にずらりと並ぶ。
- ◆ 1階スペース：「二川みらいづくりセンター」として地域資料や歴史展示、ゲーム・音楽グッズなどが楽しめます。
- ◆ ワークショップ：エコバッグや缶バッジ作り、年輪スタンプ体験など多彩な講座あり（マンガ表紙プリント込み）
- ◆ 設備：グラウンドや体育館は貸出可能で、団体利用にも対応します。



ふるいち二川マンガ館

【地域の現状と課題】

過疎化、高齢化、少子化、
既存施設の老朽化、廃校

【地域のニーズ】

既存施設の廃校への統合、
廃校の活用

【行政のニーズ】

老朽化した施設の除却

【企業のニーズ】

10万冊のマンガの活用



過疎化高齢化した地域で、地
域の中心に廃校となった小学
校があった。周囲には木造の古
い施設が点在していた。



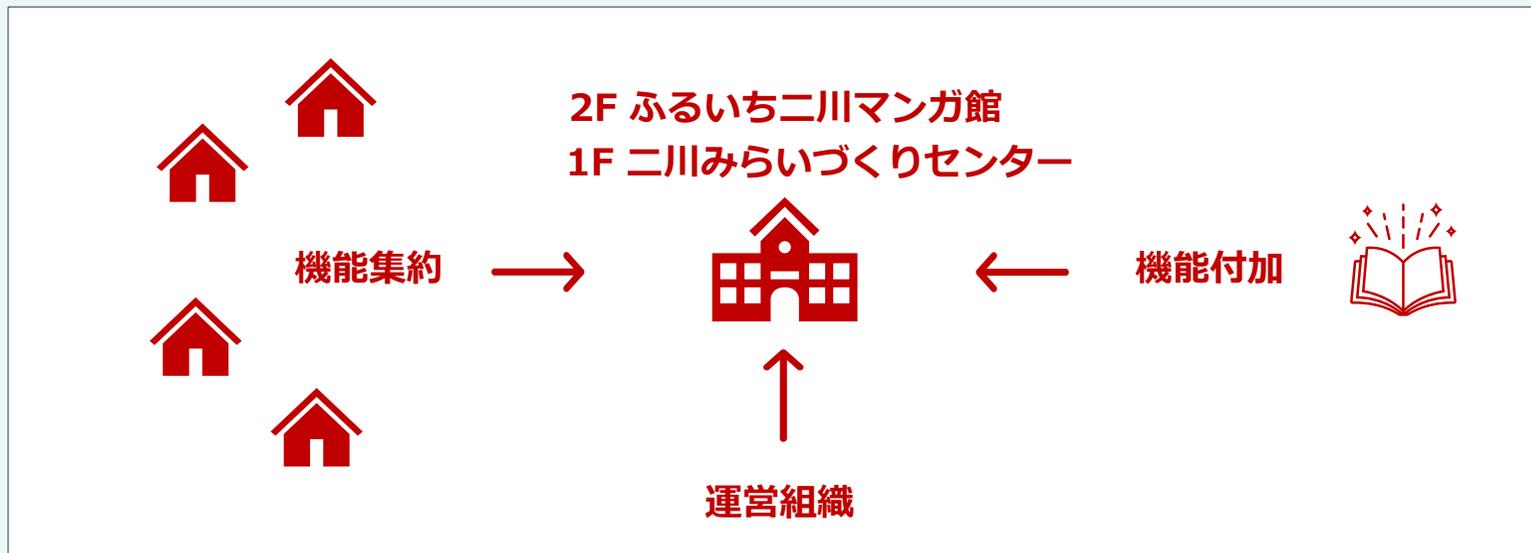
法人（運営組織）の
設立



みらいづくりセン
ター制度



マンガ館の設立





コンセプト

サステナビリティの価値を“身近に体感”できる観光文化発信拠点。環境に配慮した建築とアクティビティを通じて、自然との共存を提案しています。

**持続可能な人の営みを、
自然の中で考える。**



施設構成

CLTパビリオン「風の葉」

風に舞う葉を思わせる開放的なデザインで、自然光と風が心地よく通り抜けます。

ミュージアム

自然・地域・アートをテーマに、隈研吾の設計模型や現代アートの展示あり。

ビジターセンター&ショップ

エコグッズや発酵食品、クラフトビールなどサステナブルライフを演出する商品の販売。

サイクリングセンター

さまざまなEバイク・MTBレンタルを実施し、蒜山高原の自然を体験できます。



設計

著名建築家・隈研吾監修。CLT（直交集成板）を用いた半屋外の「風の葉（Kazenoha）」パビリオンは、元々東京・晴海で使われ、その後蒜山へ移築された建築です。



蒜山⇔晴海プロジェクト

■ 2019年

真庭で製造されたCLTを使用し、
隈研吾事務所のデザインにより、CLTパビリオンを晴海に建築



晴海で建築・運用
(2019年秋～2020年秋)



真庭産CLTの里帰り



真庭に移築リユース

©Kawasumi-Kobayashi Kenji Photograph Office



■ 2021年

- 晴海での役目を終えたパビリオンは、部材をリユースし、**真庭市蒜山（ひるぜん）に移築**。
- 都市と農山村を結びつける観光文化発信拠点「**GREENable HIRUZEN**」として、2021年7月15日にオープン。
- オープンから2年で**約24万人の来場があり、周辺施設を含め大きな経済効果が出ている**。

シェアオフィス「蒜山ひととき」



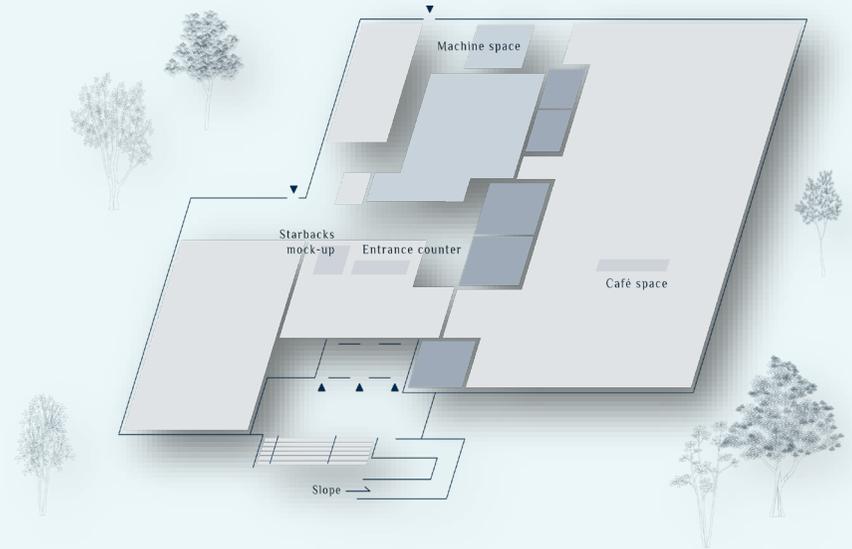
施設構成

オフィススペース：カウンター席、テーブル席、ソファ席、カフェカウンターを配し、交流と集中のバランスを設計

ミーティングルーム：ガラス間仕切りによる開放的で柔軟な空間、テレビ会議対応

作業スペース：音・匂いに配慮し、レーザーカッター・3Dプリンターなど工作に適した機能を備備

多目的スペース：ワークショップや展示、休憩など多様な用途に使用可能です。



出典：<https://hiruzen-hitotoki.jp/>

- ・シェアオフィスの行政ニーズ
- ・一般社団法人 休暇村協会の空き施設（国立公園内）
- ・利用者ニーズ

シェアオフィス「蒜山ひととき」

【現状と課題】

国立公園内の遊休施設がある。
観光客を増やしたい

【行政のニーズ】

遊休施設を活用したい。新しい観光スタイルを提案したい。

【企業のニーズ】

遊休施設を活用したい。



シェアオフィス



蒜山自然再生協議会への運営委託、
協議会の活動拠点



公民館・図書館を含む複合化の検討

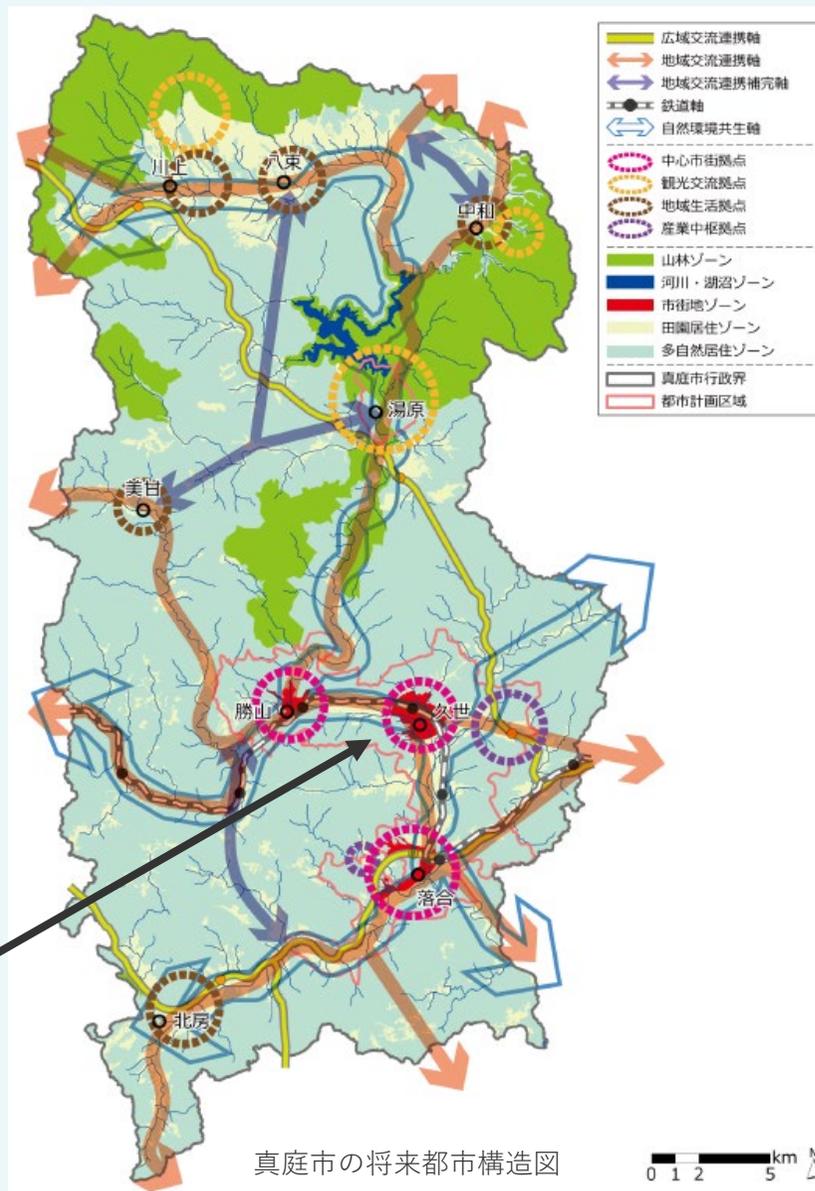
市は都市活動の拠点として勝山、久世、落合の真庭都市計画区域を包括した区域を「中心市街地」と位置付けており、久世は、**行政・産業地区**とし、土地利用の合理化や都市機能の更新により、持続可能な発展とエコタウン化を推進し、本庁舎周辺は景観や水辺、緑地整備を行い**都市機能の集積**を図るものと位置付けています。

(真庭市都市マスタープランより)



「真庭地域の公共施設最適化方針」

久世エリアの**公共施設**のうち、相互の調整が必要な施設を対象に、「真庭市都市計画マスタープラン」との整合性にも留意しつつ、同エリアにおける施設、**行政機能の配置のあり方**、整備の進め方などについて、**官民連携事業**による効率的な投資と市民サービスの最大化を図ることを目指しています。



公民館・図書館を含む複合化の検討



■久世公民館
 ・建設年 | 1970年4月
 ・延床面積 | 1,805.00㎡
 ・建物構造 | RC造
 ・階数 | 3F
 ・耐震性 | なし
 ・概要 | 公民館としての一般的な利用に加え、真庭市役所の会議室としても利用されている。旧耐震基準の建物であり、耐震性に課題がある。

■久世エスパセンター
 ・建設年 | 1997年1月
 ・延床面積 | 6,065.00㎡
 ・建物構造 | RC造
 ・階数 | 4F
 ・耐震性 | あり
 ・概要 | 市民のための音楽ホールやスタジオを要した施設である。同敷地内に市の文化財である旧遷喬尋常小学校があり、一体的な活用を検討している。

■久世体育館
 ・建設年 | 1974年6月
 ・延床面積 | 3,332.10㎡
 ・建物構造 | RC造
 ・階数 | 2F
 ・耐震性 | なし
 ・概要 | 市民の休息、散歩、運動等総合的な利用のために都市公園として設置されている。旧耐震基準の建物であり、耐震性に課題がある。

■久世第二保育園
 ・建設年 | 1973年4月
 ・延床面積 | 644.99㎡
 ・建物構造 | RC造
 ・階数 | 1F
 ・耐震性 | なし
 ・概要 | 児童福祉法に基づく公立の保育園で、1歳児から就学前の5歳児まで80名を定員として受け入れを行っている。

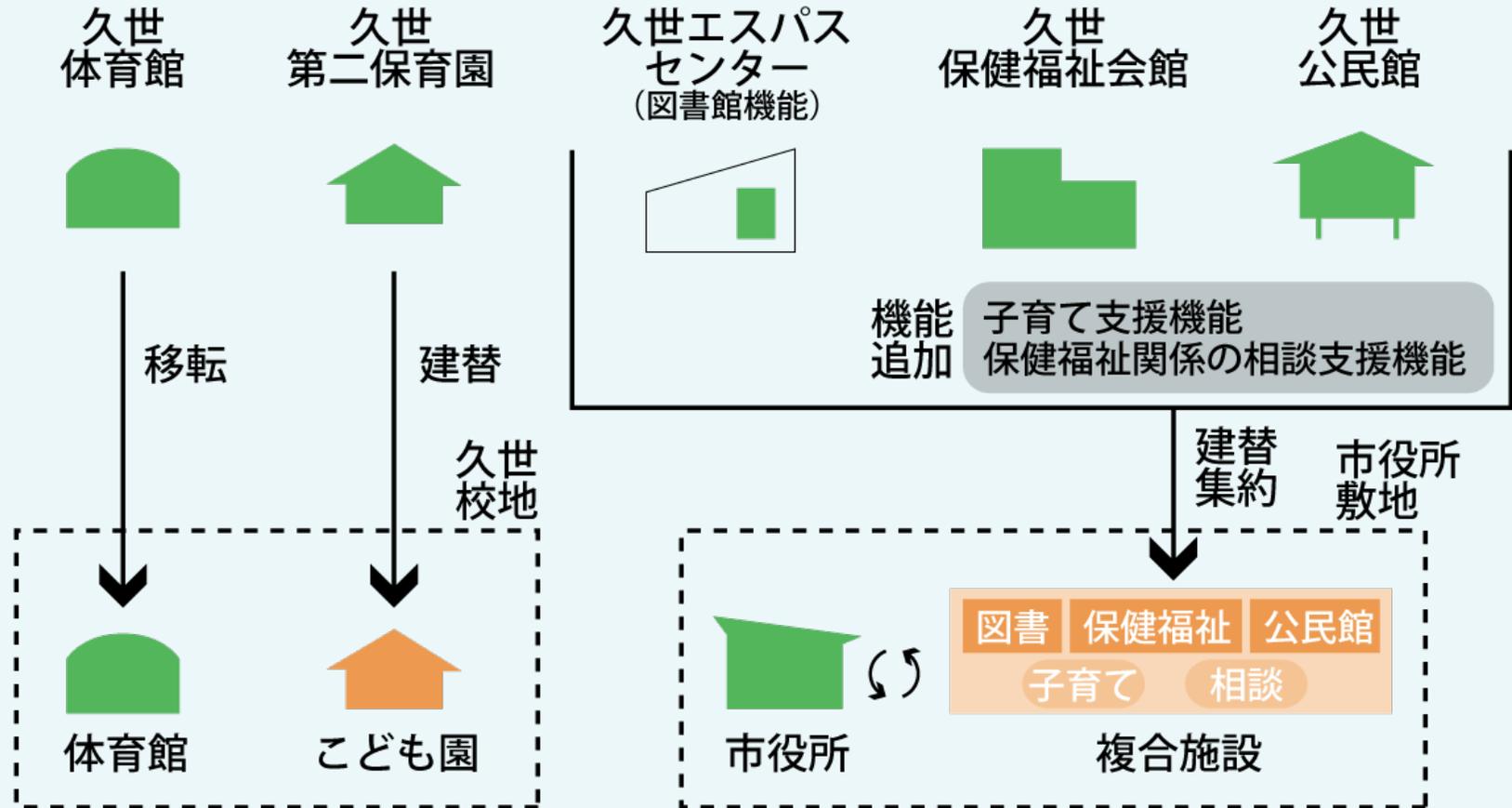
■久世保健福祉会館
 ・建設年 | 1995年11月
 ・延床面積 | 1,316.64㎡
 ・建物構造 | RC造
 ・階数 | 2F
 ・耐震性 | あり
 ・概要 | 真庭市社会福祉協議会が入居し、地域福祉事業を実施している。また、真庭市地域生活支援センターが入居し、地域生活支援事業を実施している。

公民館・図書館を含む複合化の検討

機能の再構築



公民館・図書館を含む複合化の検討



凡例

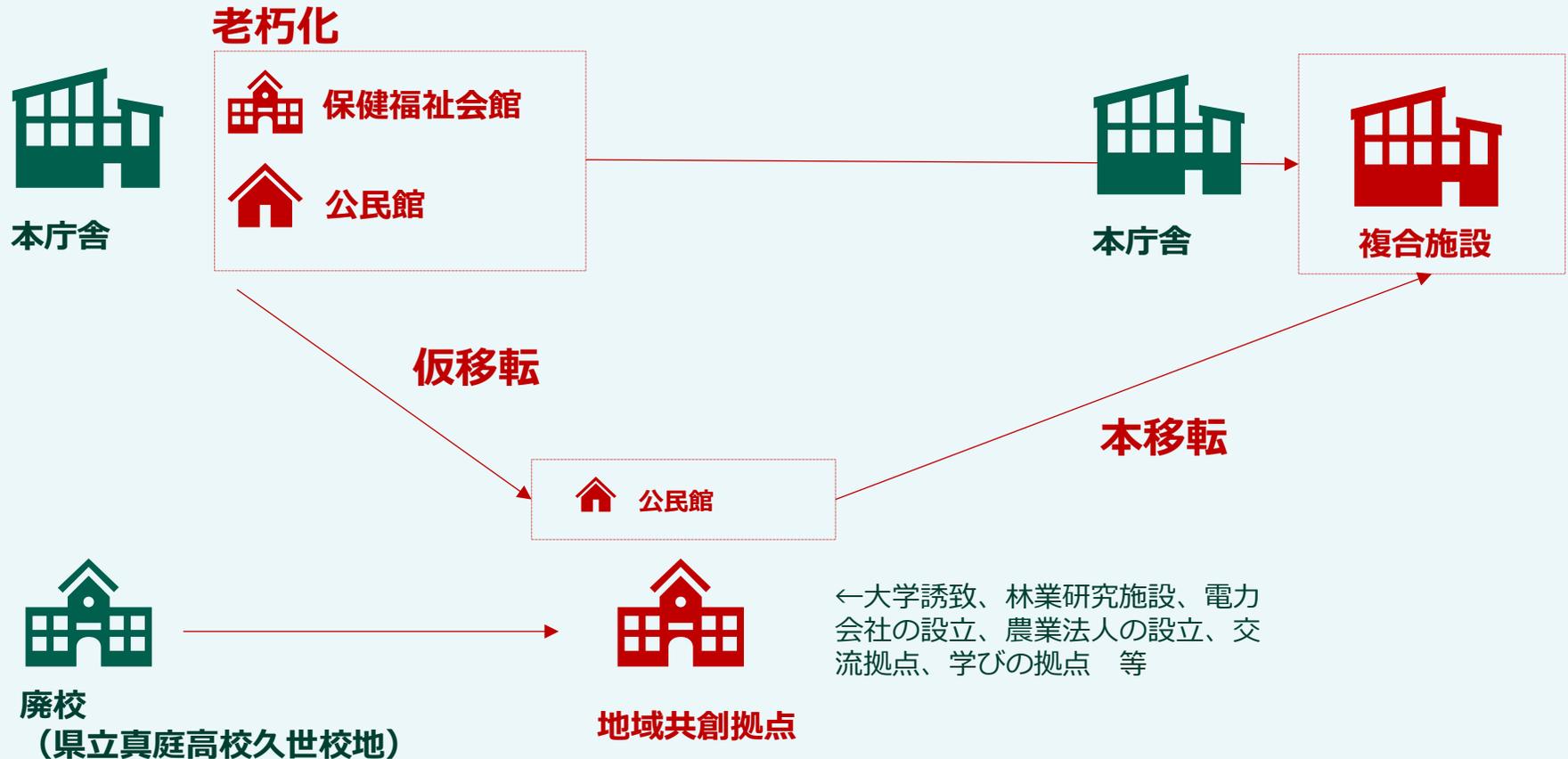
■：新設

■：既存利用（機能移転）

施設間の施設構成の整理イメージ

公民館・図書館を含む複合化の検討

機能の再構築



公共施設の活用にあたって

- **現状と課題** を整理する
- **ニーズ** を把握する
- **キャスト** を探す
- **ストーリー** を作る
- **制度** を作る